

当行の平成16年9月期中間決算の概要について

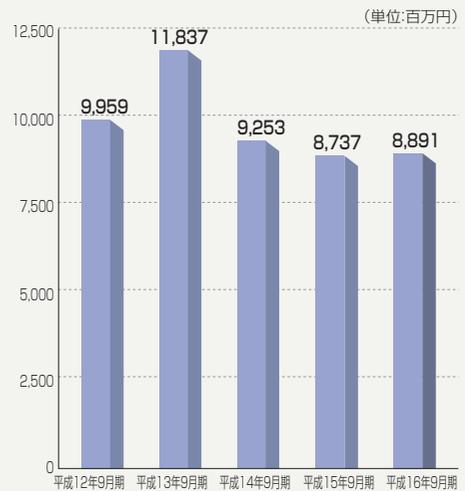
当行では新中期経営計画「ステップ・アップ・プランII」に基づき、業容の拡大と財務基盤の強化に努めてまいりました。

損益の状況について

平成16年9月期決算の経常収益は88億91百万円(前年同期比1.7%増)、経常利益は10億62百万円(前年同期比225.7%増)、中間純利益は8億95百万円(前年同期比118.6%増)と前年同期に比べ増収増益となりました。また、銀行本来の収益力を表すコア業務純益は14億21百万円(前年同期比7.9%増)となりました。

増収増益の要因は、前年同期に比べ貸出金残高が増加し貸付金利息収入が増加したことや、国内債券利回が上昇したことにより有価証券利息配当金が増加したことに加え、取引先企業の業績回復や当行による企業改善支援の効果により貸倒引当金繰入等の与信関連の費用が減少したことなどによるものです。

経常収益

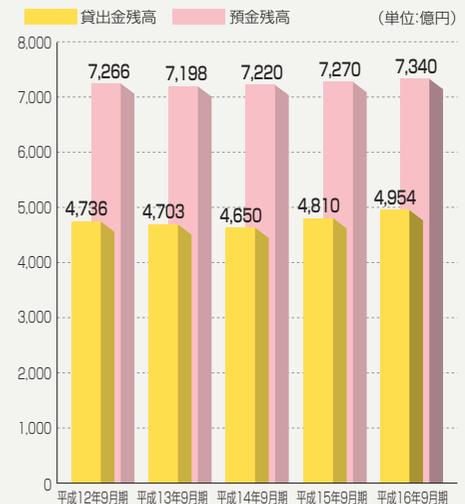


預金・貸出金残高、有価証券残高、自己資本比率(単体)について

預金残高は個人預金残高が堅調に推移し、7,340億81百万円(前年同月比0.9%増)となりました。貸出金残高は主に住宅ローンや地方公共団体向け貸出が堅調に推移したことから4,954億61百万円(前年同月比2.9%増)となりました。

有価証券残高は、債券相場や株価動向を勘案しながら、資金の効率的かつ安定した運用に努め1,885億12百万円(前年同月比8.2%増)となりました。自己資本比率(国内基準・単体)は、中間純利益を計上したことなどから平成16年3月末比0.42ポイント上昇し8.42%となりました。

預金・貸出金残高



経常利益・中間純利益

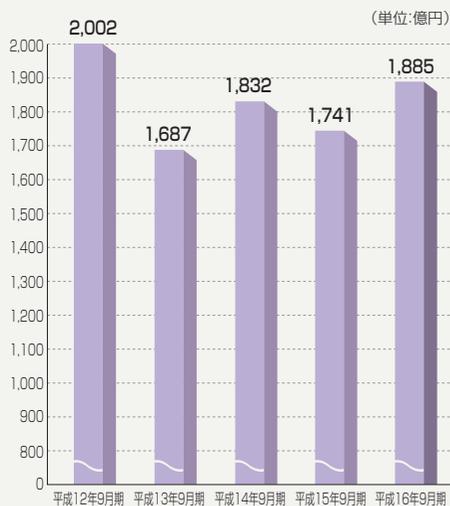


業務純益・コア業務純益

※コア業務純益とは、業務純益から一般貸倒引当金繰入額及び債券売買等の損益を控除した金額をいいます。



有価証券残高



自己資本比率(単体)

